

日本国内 自動車解体事業者様向け

リチウムイオンバッテリー取り外しマニュアル



N-ONE e: (JG5)

2026年6月

本田技研工業株式会社

INDEX.....

1. はじめに	2
2. リチウムイオンバッテリーのリサイクル概要	3
3. リチウムイオンバッテリー高電圧回路作業の注意	6
4. リチウムイオンバッテリー液漏れ時の対応方法	9
5. リチウムイオンバッテリー火災時の対応	10
6. リチウムイオンバッテリー引渡し及び荷姿要領	10
7. 駆動用バッテリー高電圧回路作業の注意	11
8. 駆動用バッテリー取り外し作業手順	12
9. フレームNo.の位置	19
10. テレマティクス用小型LiB取り外し作業の注意	20
11. テレマティクス用小型LiB取り外し作業手順	22
高電圧注意標示	24

1. はじめに

このマニュアルは使用済み電気自動車廃棄時に、搭載されているリチウムイオンバッテリーのリサイクルを目的として、リチウムイオンバッテリーの取外し、回収について解説するものです。

リチウムイオンバッテリーは、高電圧かつ重量物 のため、本書を熟読の上、安全に作業を行ってください。

取外しを含め、高電圧部位を扱う作業を行っていただくにあたっては、事前に労働安全衛生法第59条ならびに労働安全衛生規則第36条により、特別講習の受講が義務付けられています。

リチウムイオンバッテリーは、回収してリサイクルされますので、絶対に廃棄しないでください。必ず本書に従い、自動車再資源化協力機構に連絡し、運送会社に回収してもらってください。

当機種には、

- ・駆動用リチウムイオンバッテリー
- ・テレマティクス用小型リチウムイオンバッテリー

が搭載されています。

使用済み自動車の再資源化等に関する法律施行規則の一部が改正されました。（第九条第二号）
解体業者による使用済み自動車の再資源化に関する基準として、使用済み自動車から取り外す必要のある部品に
リチウムイオン電池、ニッケル・水素電池が追加されました。

（2012 年2 月1 日から施行）

■ 安全に関する表示について

※以下のシンボルマークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

2. リチウムイオンバッテリーのリサイクル概要

回収されたバッテリーは有効活用されます。電気自動車廃棄時のバッテリーリサイクルに、ご協力をお願いいたします。



- 車両廃棄の際は駆動用バッテリーを必ず取り外してください。

リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、リチウムイオンバッテリーを搭載したまま車両のプレスなどを行うとリチウムイオンバッテリーが破損し、

- 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- リチウムイオンバッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。

- 使用済みの駆動用バッテリーは他の車両への搭載や、転売等をしないでください。

リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、適切に回収されずに第三者が高電圧部位に触れると感電する恐れがあります。

また、適切に回収されないリチウムイオンバッテリーが破損した場合、内部から漏れた電解液により炎症等を負ったり、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

リチウムイオンバッテリーは搭載されているHonda電気自動車専用であるため、決められたHonda電気自動車以外で使用すると発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

- 駆動用バッテリーに液漏れ、変形、破損、異音や熱の発生が認められる場合は、作業前に必ず下記に連絡し、指示に従ってください。

リチウムイオンバッテリーに異常があるまま取り外し作業を行うと短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

- 駆動用バッテリーは各車種別「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」で指示する以上の解体を行わないでください。

リチウムイオンバッテリー内部にある電池セルは高電圧を有する場合があるので、本書で指示する以上の解体を行うと短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

※ 車両から駆動用バッテリーを取り外した際は、自動車再資源化協力機構ウェブサイト内「リチウムイオンバッテリー引取依頼システム」より、必要事項を記入のうえ、回収にご協力ください。

自動車再資源化協力機構

回収依頼：<https://www.lib-jarp.org/>

お問い合わせ：0570-000-994

※ 車両から駆動用バッテリーを取り外す前、または取り外す際に異常が認められた場合は、必ず下記にご連絡ください。

本田技研工業(株) お客様相談センター
0120-112010 (フリーダイヤル)

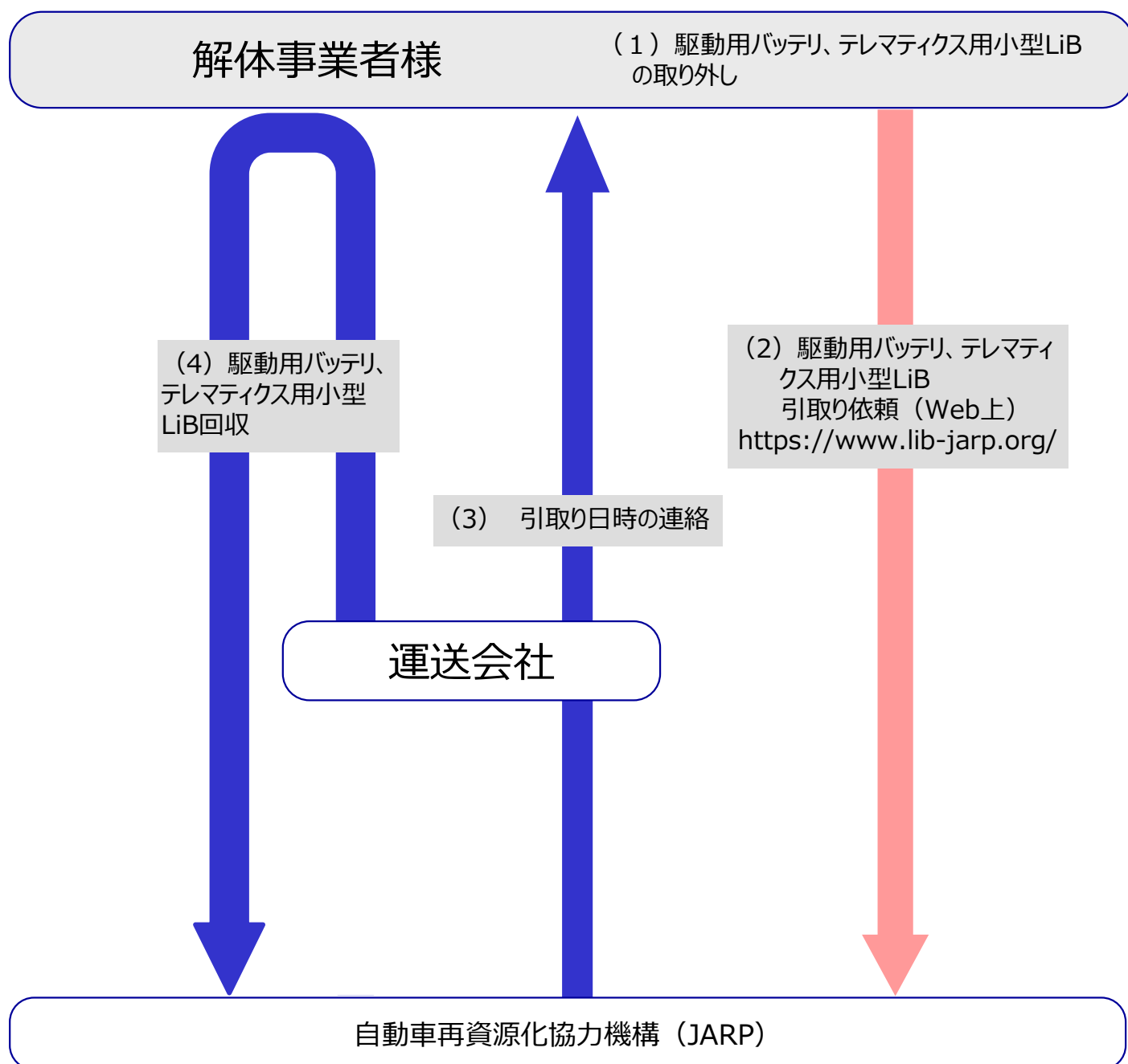
本田技研工業株式会社では転売・譲渡・改造等による専用車両以外への駆動用バッテリーユニット使用による事故・損害等については責任を負いかねます。

転売・譲渡・改造等の結果、事故防止を目的とする使用環境の制限、使用条件の制限、設置据付条件の制限、使用前準備の制限、使用者の制限、予測される誤使用の禁止、保守・点検、異常時の処置等についての告知がされないことによりその後の使用者等において危険性が認識されず、事故が起こった場合、転売・譲渡等を行った事業者等の製造物責任が問われる可能性があります。

本田技研工業株式会社では駆動用バッテリーユニットの回収を自動車再資源化協力機構を通して実施していますのでご利用ください。

■リチウムイオンバッテリーの回収・リサイクル フロー

駆動用バッテリー、テレマティクス用小型LiBを、自動車再資源化協力機構（JARP）ウェブサイト内「リチウムイオンバッテリー引取依頼システム」で引取った場合、下図の流れで回収・リサイクルを行います。



引取り依頼の際には、自動車再資源化協力機構のホームページをご参照いただき「リチウムイオンバッテリー引取依頼システム」より必要事項を入力の上、ご依頼ください。

自動車再資源化協力機構 ホームページ⇒<https://jarp.org/>

リチウムイオンバッテリー回収概要⇒<https://www.jarp.org/duties/lib/>

引取依頼システム⇒<https://www.lib-jarp.org/>

引取り依頼に関するお問い合わせは、自動車再資源化協力機構

TEL：0570-000-994へご連絡ください。

【平日9:00～17:00（年末年始及び土日祝祭日を除く）】

■リチウムイオンバッテリー回収手順

(1) リチウムイオンバッテリーの取り外しおよび保管

- 取り外し作業手順については、各車種別の「リチウムイオンバッテリー取り外しマニュアル」をご覧ください。
- 保管については本書の「駆動用バッテリーの取り扱いおよび保管する場合の警告」をご覧ください。
- 「リチウムイオンバッテリー取り外しマニュアル」通りに取り外し作業をしていただかないと、回収をお断りする場合もございます。

(2) 自動車再資源化協力機構ホームページより引取依頼

- リチウムイオンバッテリー引取依頼システムより、必要事項を入力のうえご依頼ください。
- リチウムイオンバッテリー引取依頼システムURLはこちら ⇒ <https://www.lib-jarp.org/>

(3) 引取日のご連絡

- 運送会社より引取日時などを連絡させていただきます。
- 回収日時確定後、引取依頼システムから『取扱注意書』を印刷して、バッテリーに貼り付けをお願いします。

(4) 回収

- 指定の運送会社が引取りに伺います。
- 荷姿は車種ごとに異なりますので、「駆動用バッテリー取り外し作業手順」で指定する荷姿にしてください。
- 運送会社が伺いましたら、運送会社ドライバーの目視確認、ヒアリング事項に答え、「荷姿状態確認書」と「管理票」にLiB引渡しのサインをしてください。
- 解体事業者様にてフォークリフト等でトラックの荷台へ載せてください（車上渡し）
- 本リチウムイオンバッテリー回収・処理スキームは廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）に準じておりますので、運送会社がお渡しする管理票A票は5年間保管をお願いいたします。

3. リチウムイオンバッテリー高電圧回路作業の注意

■ 高電圧回路作業の全般的な警告



警告

- 駆動用バッテリーは直流高電圧回路が使用されているので、解体作業を行う場合は、電気回路遮断と絶縁処理を確実に実施してください。
リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、電気回路を遮断しなかったり絶縁処理を行わずに作業を行った場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 「リチウムイオンバッテリー取り外しマニュアル」の指示手順以外の高電圧部位の分解やハーネスの切断は絶対に行わないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。高電圧遮断後であっても不用意な分解やケーブル、ハーネス等の切断は、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 作業中の車両には高電圧注意標示「高電圧作業中触るな」をステアリングおよび作業場所に表示し、安全を確保してください。
リチウムイオンバッテリー取り外し作業中、第三者が不用意にENGINE START/STOPスイッチ（またはエンジンスイッチ）を「ON」にした場合、高電圧が復活し、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 駆動用バッテリーの取り外し作業は、一人で行わないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。単独での作業は万一の際、救援を求めることができません。必ず複数人での作業、または他の人から作業状況が見えるようにして作業を行ってください。
- 短絡の恐れのある金属製品を身につけて作業をしないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。身につけた金属製品が高電圧部位に接触すると、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- ペースメーカー等の電子医療機器装着者はこのシステムの作業を絶対に行わないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。電子医療機器に影響を及ぼし重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡する恐れがあります。
- 不用意に高電圧部位に触らないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。不用意に触れると短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 重機による作業は行わないでください。
リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、重機による作業で駆動用バッテリーに衝撃を与えたり、リチウムイオンバッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオンバッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。

■ 高電圧回路作業を行う場所についての警告



警告

- 雨や水がかかったり、結露が発生するような環境で作業しないでください。
リチウムイオンバッテリーは内部に高電圧部位があるため、水分により濡れた場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 必ず消火設備のある場所または消火器（油火災、電気火災に適合したもの）がある場所で作業を行ってください。
リチウムイオンバッテリーが万一、短絡による発火、発煙等を起こした場合に対応できる必要があります。
- 周囲に障害物のない、安定した床面の安全に作業できる場所で作業を行ってください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、落したり、転倒させて衝撃を与えてリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーが長時間直射日光にさらされたり、高温になる場所では作業を行わないでください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、高温による変形などによりリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。

■ 駆動用バッテリー取り扱いおよび保管する場合の警告



- 駆動用バッテリーに、衝撃を与えたり圧力をかけないでください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、衝撃や圧力を与えてリチウムイオンバッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーが長時間直射日光にさらされたり、高温になる場所に保管しないでください。
高温によるリチウムイオン バッテリーの変形・損傷などが発生した場合、液漏れを起こし炎症等を負ったり、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 雨や水がかかったり、結露が発生するような環境で駆動用バッテリーを保管しないでください。
リチウムイオン バッテリーは内部に高電圧部位があるため、水分により濡れた場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 周囲に障害物のない、安定した床面に置いて保管してください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、落したり、転倒させて衝撃を与えてリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーは積み重ねたり、他の物を載せたり、不安定な場所に置いたりしないでください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、落下させたり重量物を乗せてリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- リチウムイオンバッテリーが液漏れしていた場合は、必ず液漏れ時の対応方法に従って対処してください。
リチウムイオン バッテリーのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類 非水溶性液体に該当します。
- リチウムイオンバッテリーが液漏れしたり、異臭がする場合は、ただちに火気より遠ざけてください。
リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液に引火し、発火、発煙、破裂等の恐れがあります。

4. リチウムイオンバッテリー液漏れ時の対応方法

《 リチウムイオンバッテリー 》



警告

- 駆動用バッテリーから液漏れが見られた場合は、以下の事項を遵守するとともに、直ちに本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）まで連絡し、取り扱いについての指示を受けてください。
- リチウムイオンバッテリー液漏れ時は、下記の要領に沿って正しい処置を行ってください。
リチウムイオン バッテリーのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類非水溶性液体に該当します。処置を誤ると炎症等の重大な傷害を受けることがあります。
- リチウムイオンバッテリー液が目に入ったり皮膚に付着しないよう充分注意してください。万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄した後、専門医の診断を受けてください。
リチウムイオン バッテリー電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。
- 漏出したリチウムイオンバッテリー液に、第三者が不用意に近づいたり触れることのないよう、ガード等で周囲を封鎖するなどの処置を講じてください。
リチウムイオン バッテリー電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。

リチウムイオン バッテリー電解液は揮発性有機溶剤です。万一、リチウムイオンバッテリー付近に液漏れが確認された場合は、リチウムイオン バッテリー電解液が含まれる恐れがあるため、下記の手順により処置を行ってください。

- (1) 作業は、耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）、保護メガネ〕を必ず着用の上行ってください。
- (2) 乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。
※ 電解液およびその蒸気は、水（空気中の水分も含む）と反応して、酸性の物質を生成する可能性があります。
- (3) 野外では風上側から、屋内の場合は十分に換気をしながら行ってください。電解液の揮発成分を吸入してしまった場合は、直ちに換気が十分で新鮮な空気のある場所へ移動し、気分が悪い場合は速やかに医師の診断を受けてください。
※ 電解液の揮発成分を吸入した場合、吐き気や呼吸困難を引き起こす恐れがあります。
- (4) リチウムイオン バッテリー電解液が皮膚に触れた場合は、直ちに多量の水で洗い流してください。リチウムイオン バッテリー電解液が付着した衣服は直ちに脱いでください。かゆみや炎症等、皮膚に変化があったり、刺激痛があったりする場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- (5) リチウムイオン バッテリー電解液が万一、目に入った場合は、こすらずに直ちに多量の水で洗い流してから専門医の診断を受けてください。自身で水道等まで移動できない時は、大声で救援を求めてください。

- (6) リチウムイオン バッテリ電解液が口に入った場合は、水で口内をよく洗い、無理に吐かず、速やかに医師の診断を受けてください。

※事故などで、損傷を受けた車両およびリチウムイオンバッテリーの処置は
HONDAホームページ『電気自動車（EV）・ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い』をご参照ください。
<http://www.honda.co.jp/rescue-auto/>

本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）
受付時間：9時～12時 13時～17時

5. リチウムイオンバッテリー火災時の対応



警告

- リチウムイオン バッテリ付近に万一火災が生じた場合は、消火器（油火災：ガソリン、石油、油などによる火災および電気火災：電気配線、電気機器などによる火災に有効な消火器）で消火してください。

初期消火については、少量の水による消火はかえって危険な場合があるため、水をかける場合は消火栓などから多量に放水するか、消防隊の到着をまってください。

6. リチウムイオンバッテリー引渡し及び荷姿要領

廃棄車両より取り外した駆動用バッテリーは、車種ごとに引渡し時の荷姿が異なります。各車種別「リチウムイオンバッテリー取り外しマニュアル」に従い、車体から取り外し、引渡しをしてください。



警告

- 駆動用バッテリーが破損したり、液が漏れている場合は、本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）まで連絡し、取り扱いについての指示を受けてください。

リチウムイオン バッテリのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類 非水溶性液体に該当します。

- 駆動用バッテリーを保管する場合は、「駆動用バッテリー取り扱いおよび保管する場合の警告」に従い、安全に保管してください。

リチウムイオン バッテリーは内部に高電圧部位があるため、水分により濡れたり、何らかの原因で変形・破損した場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

7. 駆動用バッテリー高電圧回路作業の注意



警告

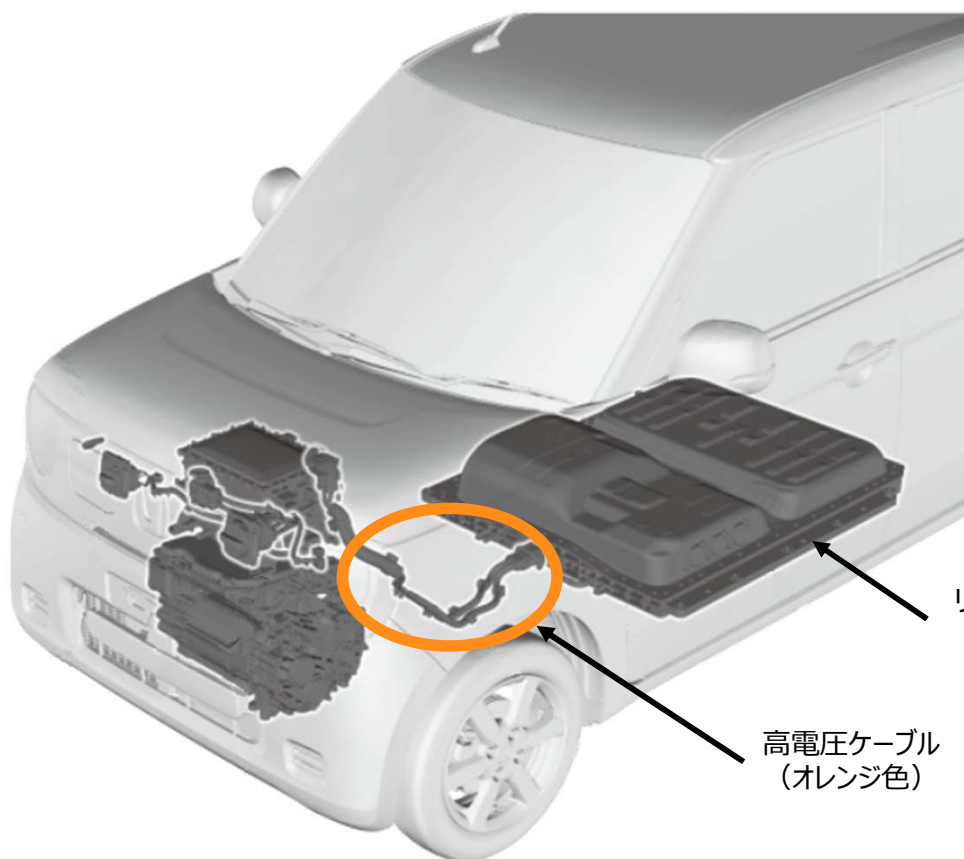
- 必ずパワースイッチをOFFにしてください。

作業を行う前に必ずメータ内の表示が全て消灯していることを確認してください。

■ 高電圧部位

N-ONE e:の高電圧部位は、以下の通りです。

- 高電圧ケーブルには、オレンジ色による識別がしてあります。



リチウムイオンバッテリー
(車体下部)

高電圧ケーブル
(オレンジ色)



警告

- 車体下側にリチウムイオンバッテリー、高電圧ケーブルが配線されています。リチウムイオンバッテリー、高電圧ケーブルが破損または切断された場合、高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。車両の吊り上げやジャッキアップ時、リチウムイオンバッテリー、高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。

リチウムイオンバッテリー取り外し作業に関してご不明の点および、リチウムイオンバッテリー本体に異音や発熱等の異常がある場合は、下記にお問い合わせください。

本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）

受付時間：9時～12時 13時～17時

8. 駆動用バッテリー取り外し作業手順

(1) パワーシステム警告灯を確認し、パワースイッチをOFFにする

本車両においては12Vバッテリーを取外す前に 自動車リサイクル法に定められたエアバッグ類の適正処理を実施してください。

1. パワースイッチをONにし、メータパネル内のパワーシステム警告灯が点灯し続ける場合は、電動パワートレインに何らかの異常があります。

電動パワートレインは高電圧を使用しています。電動パワートレインに異常がある状態での取り外し作業は、絶対に行わないでください。

直ちにパワースイッチをOFFにし、作業を中止して、必ず下記に連絡して指示に従ってください。



本田技研工業（株） お客様相談センター
0120-112010（フリーダイヤル）
受付時間：9時～12時 13時～17時



パワーシステム警告灯

2. シフトレバーを「P」ポジションにしてから、パワースイッチを約2秒以上長押しをして、OFFにする。

※ 意図しない再始動を防ぐためにも、キーレスリモコンを車から最低でも6メートル離してください。



3. メータ内がすべて消灯していることを確認する。



警告

- パワースイッチOFF後、5分間は作業を行わないでください。

パワースイッチOFF後、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間かかります。
高電圧遮断直後の作業は短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

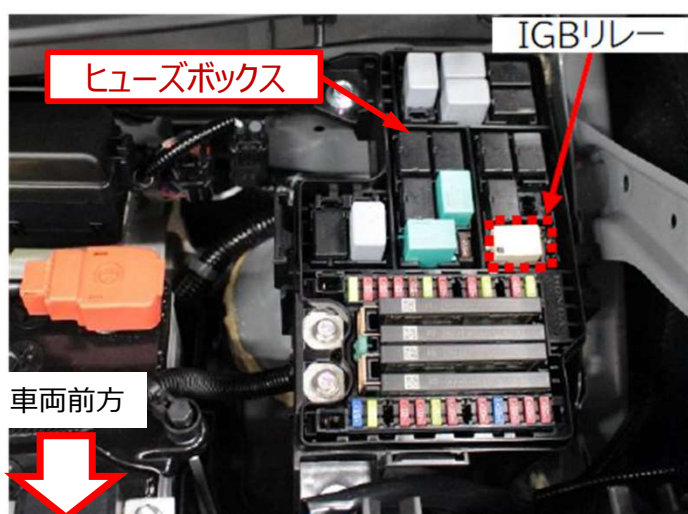
(2) 使用備品・装備を準備し、12Vバッテリーターミナルを切り離す

※ バッテリー端子は、必ずマイナス（－）端子から切り離す

リチウムイオンバッテリー取り外しに用いる備品、装備

作業を始める前に以下の備品・装備を準備して下さい。

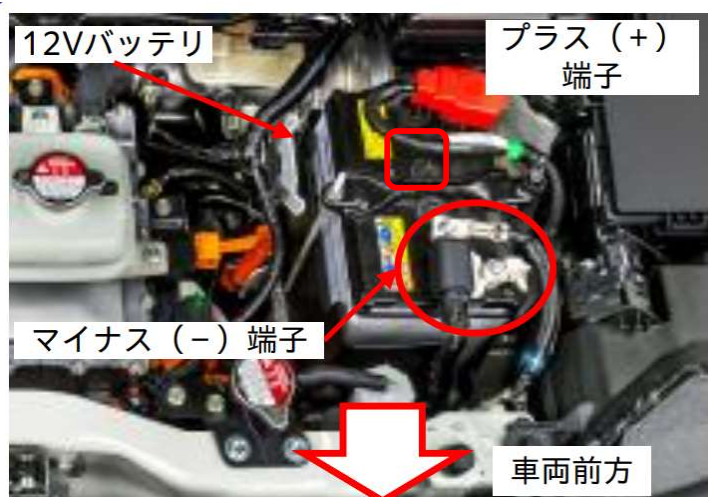
- ・ 絶縁工具（EN60900 適合品）： T レンチ、トルクスレンチ（T-25、T-27、T-30）、ソケットレンチ（8mm、10mm、12mm、14mm）、ラチェットハンドル、マイナスドライバ
- ・ リフタ（バッテリー重量以上の耐荷重のもの）
- ・ 電圧測定器（EN61010 適合品）： テスターおよびヒューズ付きリード棒
- ・ 絶縁手袋（EN60900 適合品）



1. 12Vバッテリーの横にあるヒューズボックスのカバーを外し、左図のIGBリレーを取外す

【参考】

IGBリレーを外さないと、12Vバッテリーの両端を外しただけでは、電氣的接続を切断できません



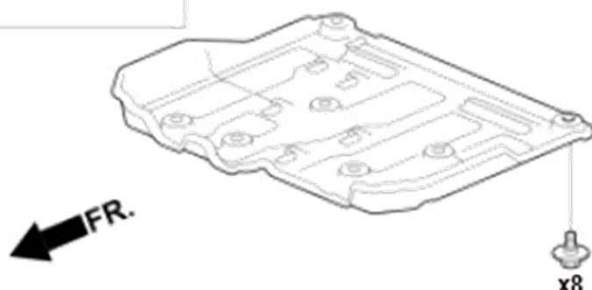
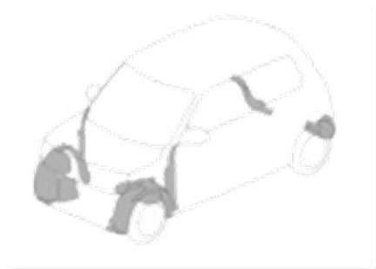
2. 12Vバッテリーからマイナス（－）端子側のケーブルを外した後、プラス（＋）端子側のカバーを外しプラス（＋）端子側のケーブルを外す



警告

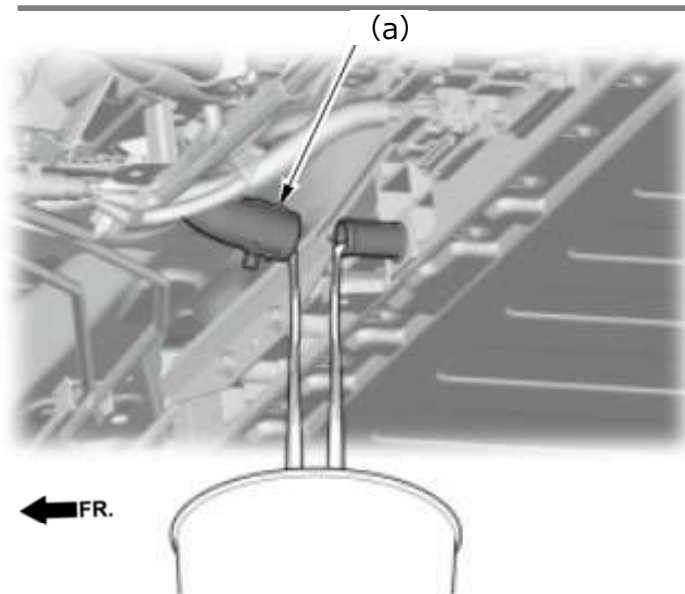
- 12Vバッテリーの接続を外した後、5分間は作業を行わないでください。
12Vバッテリーの接続を外した後、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間かかります。高電圧遮断直後の作業は短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

(3) IPUクーリングカバーを取り外す

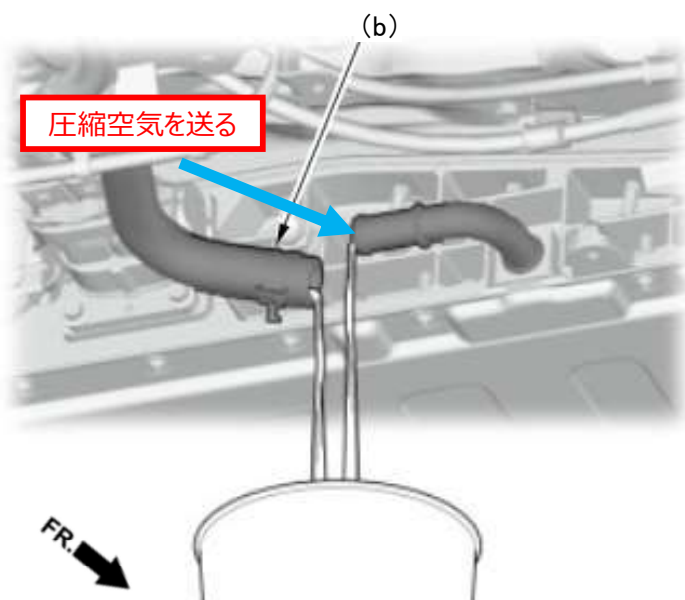


1. ボルト（8ヶ所）を取り外し、IPUクーリングカバーを取り外す。

(4) 冷却水を抜いてエアブローをする



1. IPUインレットホース（a）の接続を外し、IPU冷却水を抜く



2. IPUアウトレットホース（b）の接続を外し、IPU冷却水を抜く

※ 必要に応じて圧縮空気をパイプに送り、IPU冷却水を抜き取る
その際、冷却水が噴き出すため体等にかからない様注意すること。

(5) IPUパワーケーブルの接続を取り外す



警告

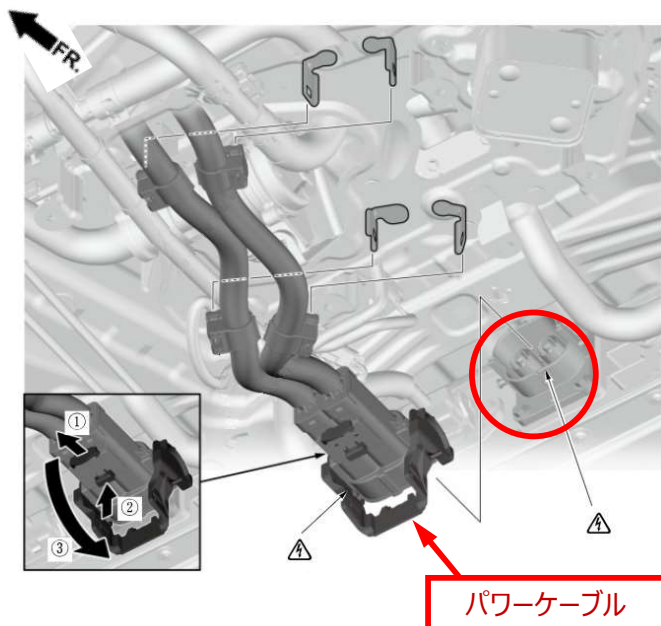
- 規格「EN60900」に適合する絶縁手袋および絶縁工具を使用してください。
リチウムイオンバッテリー（IPU）の取り外しは高電圧回路の作業を伴うので、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。



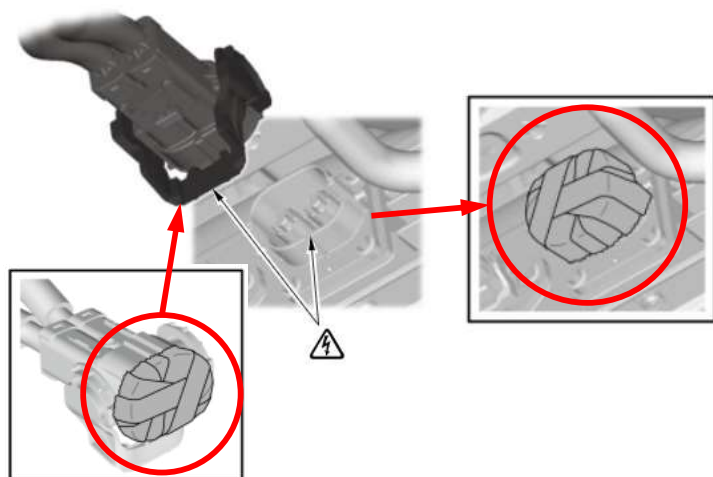
- 高電圧部位を含む作業を示します。



- 絶縁手袋の着用が必要な作業を示します。必ず絶縁手袋を着用してください。



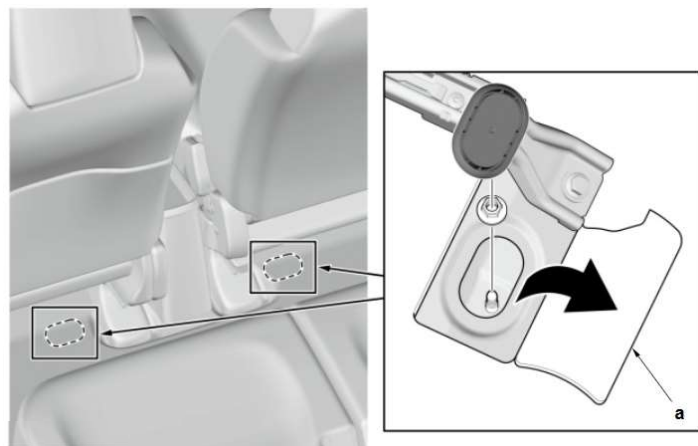
1. 図を参照に、IPUパワーケーブルを取外す



2. IPU側端子を絶縁テープで絶縁する



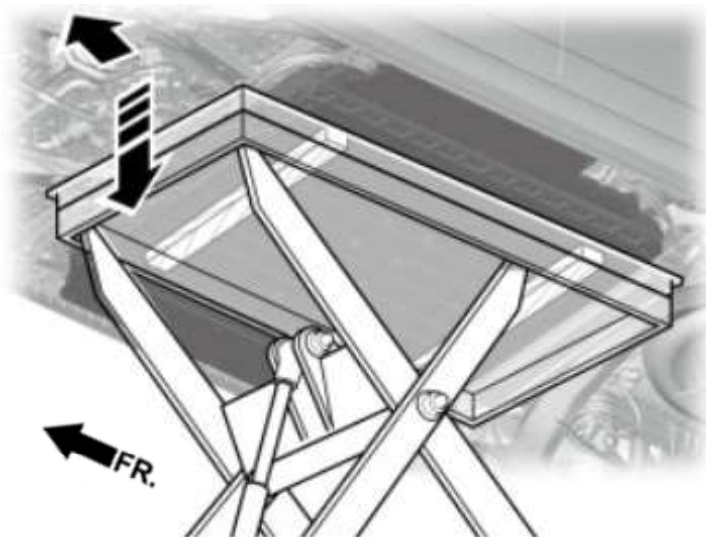
(6) 車内のリチウムイオンバッテリー (IPU) 固定ボルトを取り外す



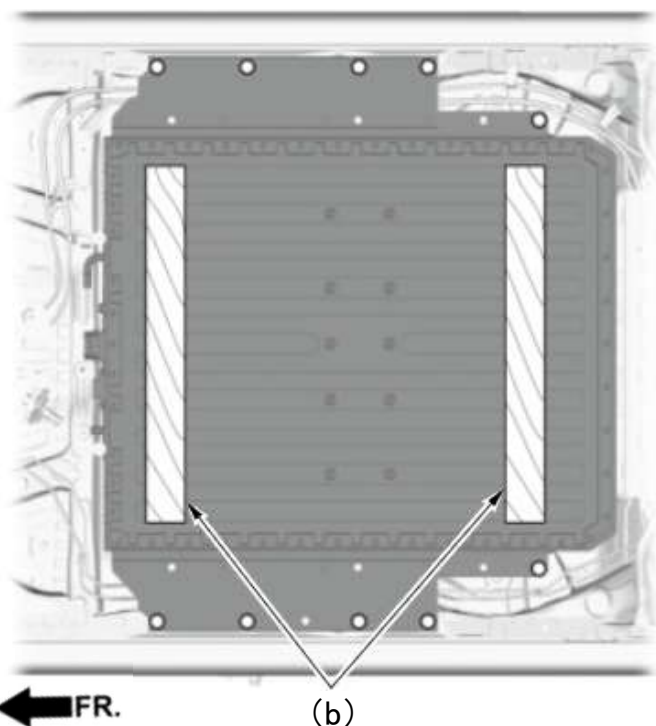
1. フロアカーペット (a) をめくり、ホールプラグおよびIPU取付ナットを取外す (2ヶ所)

FR.

(7) リチウムイオンバッテリー (IPU) 取り外し準備



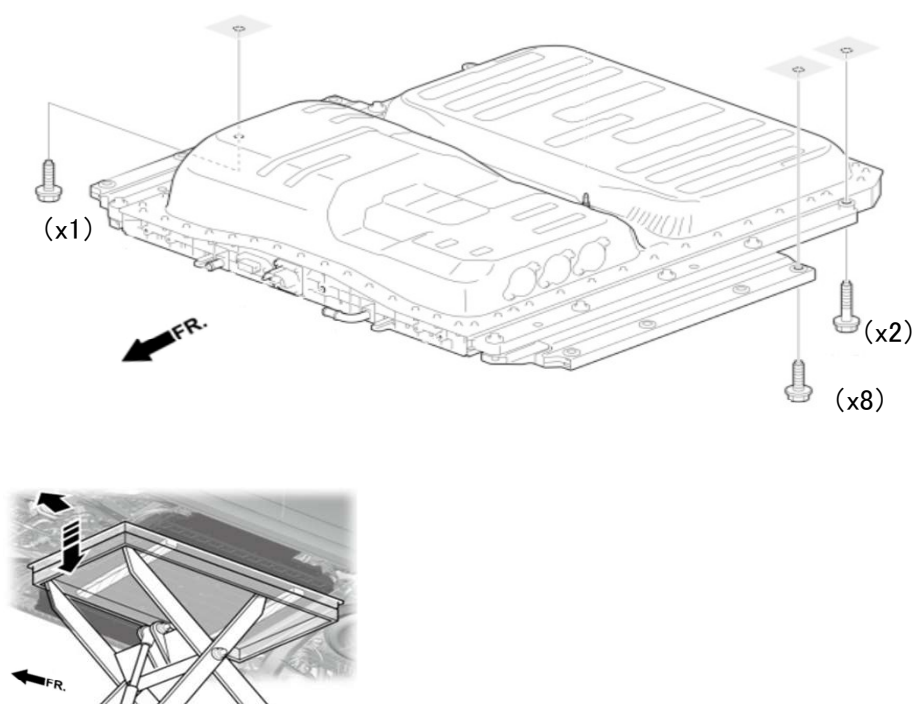
1. リフトを使用して、リチウムイオンバッテリー (IPU) を支える。
- ※ リチウムイオンバッテリー (IPU) からケーブル、ホース、配線類の接続がすべて外れていることを確認する。



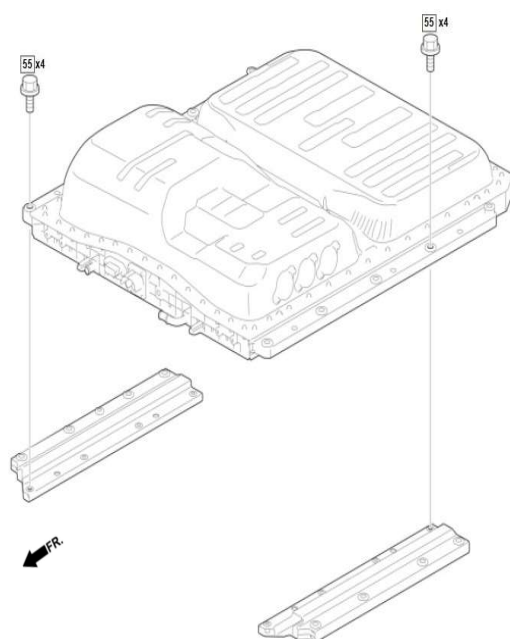
- ※ リチウムイオンバッテリー (IPU) フレーム部の下に当て板 (b) を敷くこと。
リフトの耐荷重はバッテリー重量以上で有る事。
(バッテリー重量 : 約184kg)

(8) リチウムイオンバッテリー (IPU) の取り外し

1. 車体とリチウムイオンバッテリー (IPU) を固定しているボルト (11ヶ所) を取り外し、リフト等を使用してバッテリーを降ろす。



2. ボルト (8ヶ所) を取り外し、IPUブラケットを取り外す。



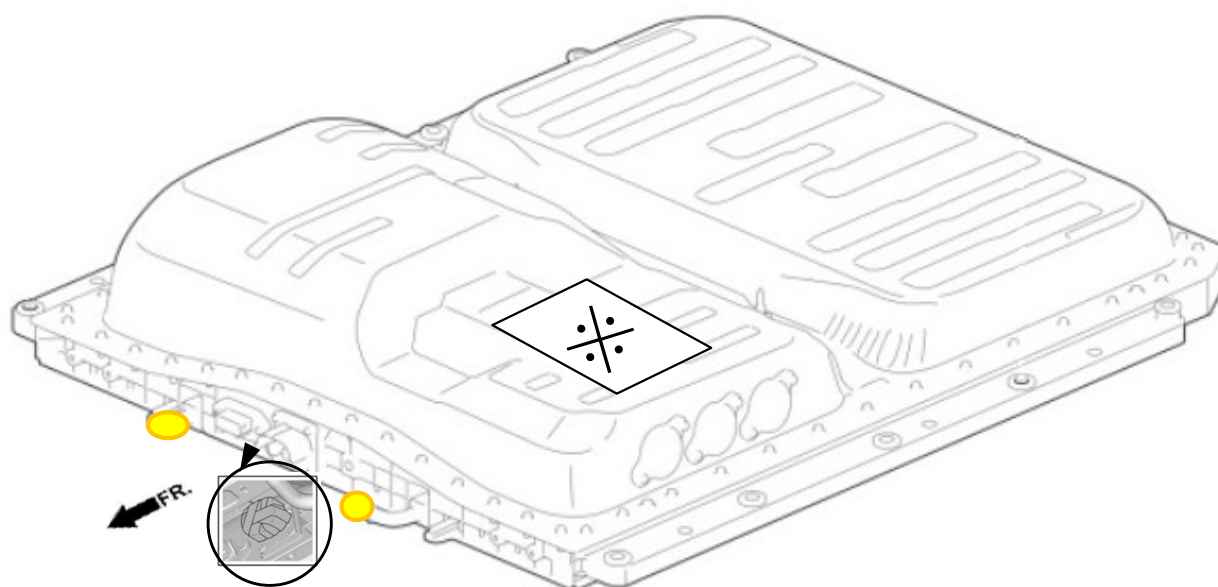
以上で、駆動用バッテリー取り外し作業は完了です。



警告

●リチウムイオンバッテリー (IPU) は約184Kgの重量があるため、注意して作業してください。 ※ 落下した場合、身体に重大な障害を負う危険性があります。

(9) リチウムイオンバッテリー (IPU) の荷姿



警告

●リチウムイオンバッテリー (IPU) は本書で指示する以上の解体を行わないでください。

リチウムイオンバッテリー (IPU) 内部にある電池セルは電圧を有する場合があるので、本書で指示する (上図) 以上の解体を行うと、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。



注意

・冷却用クーラントを使用しています。

・保管時にホースからクーラント液がこぼれる可能性がありますので、キャップや目張り等で養生して下さい。(黄丸部分)



参考図

<引渡し方法について>

- ・平パレットにPPバンド等でLiBを固定してください
- ・平パレットは解体事業者様にて用意してください
- ・解体事業者様にてフォークリフト等でトラックの荷台へ載せてください (車上渡し)
- ・回収日時確定後、引取依頼システムから『取扱注意書』を印刷して、バッテリー (※部) に貼り付けをお願いします

9. フレームNo.の位置

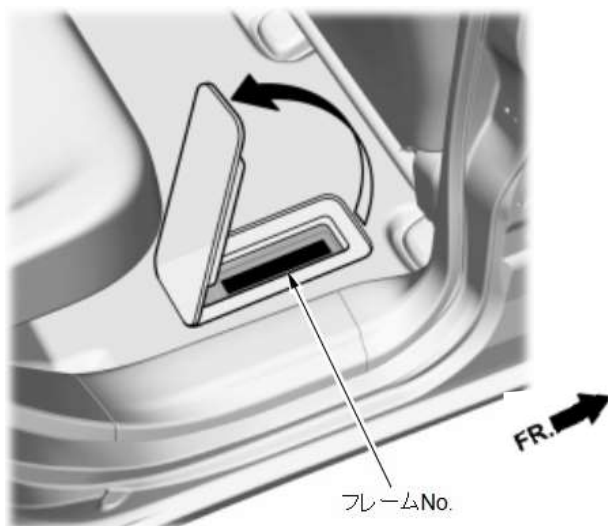
自動車再資源化協力機構 -JARP- のリチウムイオンバッテリー（LiB）引取依頼システム記入時に必要なフレームNo.は、下記を参考にご記入ください。

■ フレームNo.

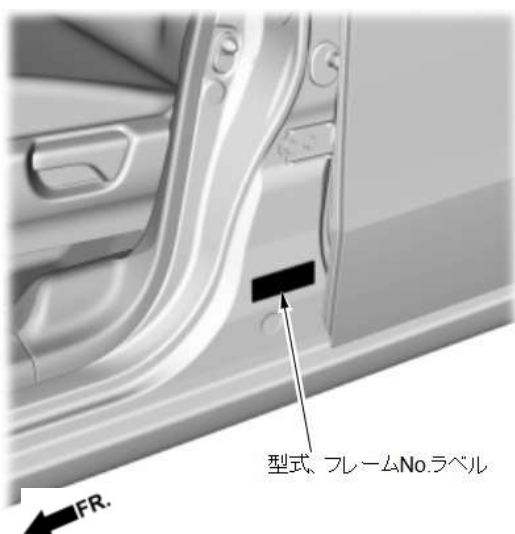
運転席シート後方フロアにある確認用リッド内に、型式およびフレームNo.が表示されています。また、助手席側ドアピラーのプレートにも表示されています。前3ケタが型式、後の7ケタ数字がフレームNo.です。

型式 JG5がN-ONE e:となります。

表示例：JG5 - XXXXXXXX（7桁の数字）



- ・ 運転席シート後方フロア



- ・ 助手席側ドアピラー

10.テレマティクス用小型LiB取り外し作業時の注意

・テレマティクス用小型LiBを取り外す際の注意点



警告

- 重機による作業は行わないでください。
テレマティクス用小型LiBは、重機による作業でテレマティクス用小型LiBに衝撃を与えたり、破損した場合、
－ 短絡による発火、発煙、破裂等の恐れがあります。
－ テレマティクス用小型LiBから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 過度の分解を行わないでください。
テレマティクス用小型LiBは、本マニュアルに従わず過度に分解した場合、
－ 発火、発煙、破裂等の恐れがあります。
－ 回収時等の事故発生の原因にもなりますので通常の方法ではお引取りできなくなります。

下図のように、テレマティクスコントロールユニットから取外した状態のままで保管してください。



※これ以上は分解しないでください。

・テレマティクス用小型LiB液漏れ時の対応方法



警告

- テレマティクス用小型LiBから液漏れが見られた場合は、以下の事項を遵守するとともに、直ちに本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）まで連絡し、取り扱いについての指示を受けてください
- テレマティクス用小型LiB液漏れ時は、次ページの要領に沿って正しい処置を行ってください
リチウムイオン バッテリーのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類非水溶性液体に該当します。処置を誤ると炎症等の傷害を受けることがあります。
- バッテリー液が目に入ったり皮膚に付着しないよう充分注意してください。万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄した後、専門医の診断を受けてください
リチウムイオン バッテリー電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。
- 漏出したバッテリー液に、第三者が不用意に近づいたり触れることのないよう、ガード等で周囲を封鎖するなどの処置を講じてください
リチウムイオン バッテリー電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。

・テレマティクス用小型LiB液漏れ時の対応方法（続き）

リチウムイオン バッテリー電解液は揮発性有機溶剤です。万一、バッテリー付近に液漏れが確認された場合は、電解液が含まれる恐れがあるため、下記の手順により処置を行ってください。

- (1) 作業は、耐溶剤用保護具〔ガスマスク（有機ガス用）、ゴム手袋（耐薬品用）、保護メガネ〕を必ず着用の上行ってください。
- (2) 乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。
※ 電解液およびその蒸気は、水（空気中の水分も含む）と反応して、酸性の物質を生成する可能性があります。
- (3) 屋外では風上側で、屋内の場合は十分に換気をしながら作業してください。電解液の揮発成分を吸入してしまった場合は、直ちに換気が十分で新鮮な空気のある場所へ移動し、気分が悪い場合は速やかに医師の診断を受けてください。
※ 電解液の揮発成分を吸入した場合、吐き気や呼吸困難を引き起こす恐れがあります。
- (4) リチウムイオン バッテリー電解液が皮膚に触れた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。リチウムイオン バッテリー電解液が付着した衣服は直ちに脱いでください。かゆみや炎症等、皮膚に変化があったり、刺激痛があったりする場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- (5) リチウムイオン バッテリー電解液が万一、目に入った場合は、こすらずに直ちに大量の水で洗い流してから専門医の診断を受けてください。自身で水道等まで移動できない時は、大声で救援を求めてください。
- (6) リチウムイオン バッテリー電解液が口に入った場合は、水で口内をよく洗い、無理に吐かず、速やかに医師の診断を受けてください。

※事故などで、損傷を受けた車両およびリチウムイオンバッテリーの処置は
HONDAホームページ『電気自動車（EV）・ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い』をご参照ください。
<http://www.honda.co.jp/rescue-auto/>

本田技研工業（株） お客様相談センター 0120-112010（フリーダイヤル）
受付時間：9時～12時 13時～17時

・テレマティクス用小型LiB火災時の対応



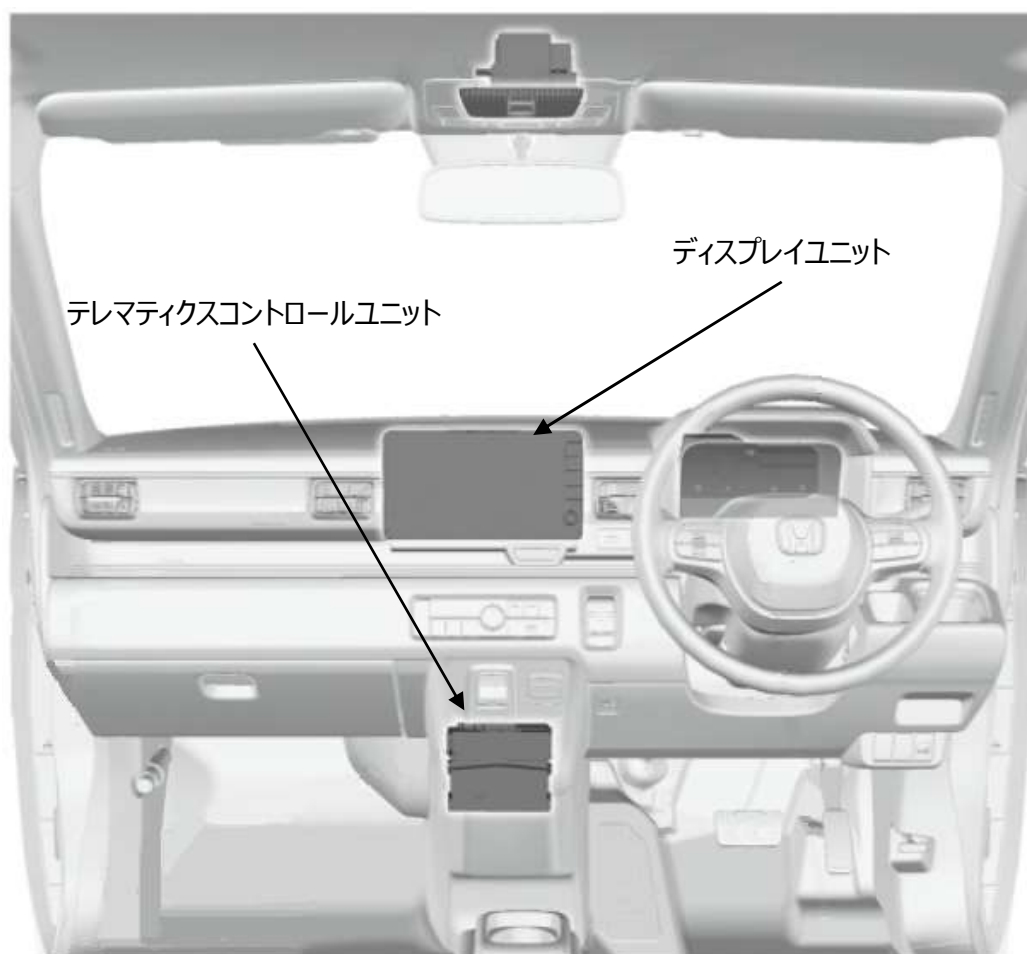
- リチウムイオン バッテリー付近に万一火災が生じた場合は、消火器（油火災：ガソリン、石油、油などによる火災および電気火災：電気配線、電気機器などによる火災に有効な消火器）で消火してください

初期消火については、少量の水による消火はかえって危険な場合があるため、水をかける場合は消火栓などから大量に放水するか、消防隊の到着をまってください。

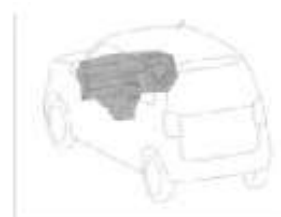
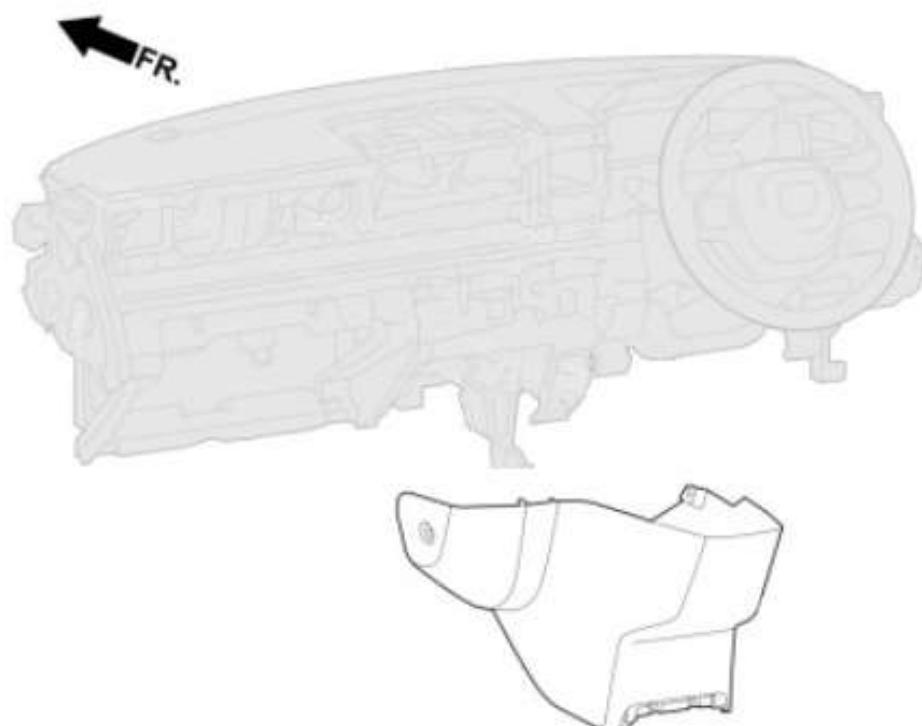
11.テレマティクス用小型LiB取り外し作業手順

ナビゲーションシステム搭載車テレマティクスコントロールユニット搭載位置イメージ

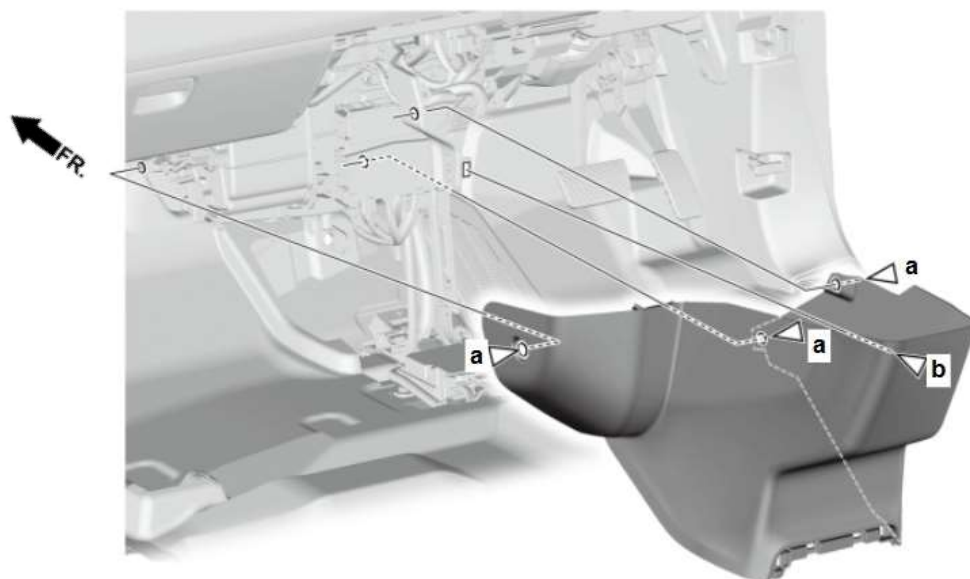
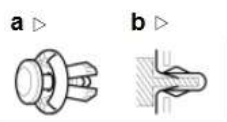
※ナビゲーションシステム非搭載車にはテレマティクス用小型LiBは搭載されていません



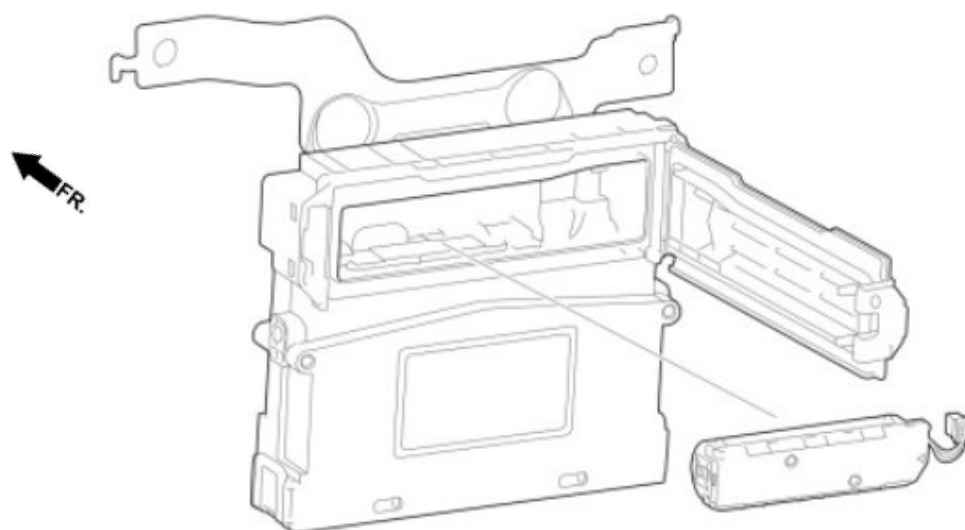
取外す部品



1. センターロアカバー取外し



2. テレマティクスコントロールユニットからのテレマティクス用小型LiB取外し



ホンダ テレマティクス用小型LiBの回収荷姿

下図の状態のまま、「リチウムイオン電池の回収・リサイクル フロー」に従って回収依頼を行ってください。
 なお、ホンダ車のテレマティクス用小型LiBであるかの判別は下記部品番号を確認してください。



部品番号 : 39873-TLA-G010-M1

高電圧注意標示

宗群

！ 触るな！

作 業 中

高 電 圧



高 電 圧

作 業 中

触るな！

担当

拡大コピーをとり、よく見える場所に貼るなどしてご活用ください。